



137号 目次
巻頭エッセイ
2 平成27年度卒業式 学長式辞
3 生き残りをかけた東京外大の挑戦
亀山前学長インタビュー ナショナルな「ミッション」
国際社会学部の4年間の総括と今後のビジョン
学部教育改編:ワンサイクルを終えて
戦略支援室から見た評価
高校教育の現場から見た大学改革
4 東京オリンピックと外語
5 海外体験・海外留学記
トルコで語って旅して喧嘩して、そして暮らした1...
おばちゃんのコモンガー
6 私の業界体験
構業者という仕事
目指す教師の姿
7 サークル訪問
8 外交官・国家公務員試験結果報告
9 フォーラム
シドニー外語会で〜す!
「出て行け」と「出て行く」
10 理事会議事録要旨
11 基金使途報告
12 会員情報
13 訃報
14 お知らせ
15 各種募集
16 編集後記

巻頭エッセイ 日本の将棋から世界のSHOGIへ

袴田 勇 (外C1971)



略歴

1971年豊田通商入社。1983-89北京駐在。1997北京再赴任。
1998-2005豊通瀋陽事務所所長兼豊通大連社長。2009年退職。
NPO 将棋を世界に広める会理事

最近クールジャパンが話題になりますが、日本固有文化の将棋の人氣が世界に広まり中国や欧米、アジアを中心に各地で将棋ファンが急増、国際化が進んでいます。

我々「将棋を世界に広める会」は多くの国で他の東京外語大OBを含めた仲間らと将棋界名士たちの協力を得ながらその普及の一翼を担っています。

世界で人気の将棋:

将棋やチェスの起源は古代インドのチャトランガである。これが世界に普及し、欧州のチェスや中国の象棋等、各国固有のボードゲームに発展したと言われている。但し、取った駒が再度使えるのは唯一日本の将棋だけ。このルールがゲームをより複雑化、ユニークで面白いと好評で、昨今のネット対局や年々進化する外国語ソフトの普及もあり、世界各国でファンが急増している。日本将棋連盟では3年毎に国際将棋フェスティバルを開催、2011年には欧州支部現地ファン自らの運営で始めて海外ノリで、14年には徳川家康顕彰400年事業の副題で静岡市で開催。静岡には世界38カ国、計46名の各国強豪が結集した。

大半が現地予選を勝ち抜いたアマ有段者で、定跡にも通じ、レベルが高い。ポーランド代表の女性カロリーナは漫画ナルトで将棋を知り、ネットのみで覚えた将棋オタク、小生も同行したパリ大会で何と日本の前女流アマ名人山口眞子さん(阪大アラビア語)に勝利、その後日本へ将棋留学、最近外国人で初のプロ棋士[女流3級]になり、話題になった。コートジボワールの黒人代表もナルトが将棋のきっかけ。ベルギー代表フレデリックさんは駐日大使館前公使。

北京での将棋活動:

2度目の北京駐在の1997年2月、豊通将棋部の師匠河口俊彦八段、旅行仲間の勝浦修九段、青野照市九段が銀座万久満で歓送会をアレンジしてくれた。万久満は大隈重信命名の老舗で社長が熱心な将棋囲碁ファン。棋士の常連客も多く、大内延介九段から95年北京で開催の読売竜王戦(羽生善治竜王対佐藤康光九段)を機会に少年宮の李民生老師(先生)が日本将棋の指導を始めたと言われた。駐在業務に慣れ始めた数カ月後、天壇の少年宮を訪問、李老師や可愛い小学生の子供達と対面。

以降週末に出向き将棋交流を始めた。中国の子供達は一人っ子の為、父兄が付き添い、一緒に将棋を覚え、子供に替わり熱心に棋譜を取っていた光景を思い出す。

途中からは子供達を少年宮から拙宅まで送迎しての交流も行った。当時は外国人との交流はまだ少ない時代。子供達には新鮮だったようで、毎回希望者が多く、入れ替わり拙宅で対局や当時人気のパソコンソフトAI将棋を指したりして時間を楽しんだ。外語の駐在仲間石黒恒夫君(外C1971)、菊川良一君(外C1971)も加わり、将棋を指導したと言うより一緒に遊んだという感覚だった(教え子の一人、当時小学生の李鵬宇君は現在アマ五段の強豪で静岡大会では一般の部で優勝)。

翌98年3月東北の責任者として赴任の折、青野九段からこの活動を知った日経新聞の依頼で、文化欄に「北京っ子、日本将棋に熱中」の見出しで寄稿、結構反響があった。その後2005年迄7年間沈陽、大連に常駐。この間、毎年のように親友青野九段が小生を訪ねてくれ、一緒に北京の少年宮へ出向いて、熱心に指導をしてくれた。

豊田通商杯・北京春節将棋大会:

帰国が決まった2005年、李老師から北京では春節に龍潭湖の廟会(縁日)で囲碁、チェス、中国象棋等ボードゲームの伝統的なイベントがある、一週間の期間中参観者は百万人以上、将棋も是非参加したいと相談を受けた。豊通の古川社長に頼んだところ、文化交流として意義があると快諾を得、翌年からスタート、07年からは青野九段に審判長を受けて頂き、北京将棋大会豊田通商杯となった。

又、この年JR西日本の級友浅沼唯明君(外C1969)が日中青少年文化交流、将棋研修の名目で李老師や学生一行を関西に招待してくれ、大いに感謝された。

将棋大会初年度は小学生を対象にしていたが、参加希望者が多く、中側の要請を受けて、中学・高校の部、大学生の部へと規模も拡大。春節の為、地方や留学中の昔の教え子も北京に帰省、大会の運営をサポートしてくれた。2011年にスタートした日経リコー女流王座戦に小学生の部で優勝した張天天

が招待枠で特別参加、NHKクローズアップ現代で取上げられた。翌年には大の将棋ファンだった木下会長[元トヨタ副社長]の提案を受け、夏休みを利用した中国の全国大会に衣替え、北京の他、上海、広州、寧夏銀川、香港の学生達が参加した。因みに現在中国の将棋人口は上海で50万、北京で10万人前後である。北京、上海では学力(特に数学)と礼儀マナーの向上に大いに成果有りとな多数の学校で授業に採用されている。

NPO 将棋を世界に広める会:

2008年、将棋を世界に広める会(International Shogi Popularization Society 通称ISPS、URL:<http://www.shogi-isps.org>)の理事2名が来社、豊通杯への協力申し出を受けて同会の存在を知った。ISPSの理事会に出ると、英米の長谷川登先(外E1957)が監査役、北昌宏君(外F1976)、世良博俊君(外R1985)が理事で、活躍しているのに吃驚。現在両名に小生、石黒君と東京外語大OB4名が理事をしていて、数から言えば最多である。ISPSは発展途上国へ将棋の盤、駒の寄贈や季刊誌、メルマガ[かけはし]の発行等の普及活動をしている。

昨今の主な活動に触れると、2014年夏、日露青年交流センターの支援を得て、モスクワ国立大の学生10数名を招待、東京、京都で日露大学生交流チェス・将棋バイアスロンを主催。トピックとしては11月北京APECサミット時、安倍総理夫人が北京将棋センターを訪問、更に李民生老師が外務大臣賞を受賞した(ISPS理事外務省山田彰前中南米局長[現メキシコ大使]の助言で小生が資料作成、将棋界では青野九段に続き2人目である)。又、この年の小学生名人北村啓太郎君(現在12歳、奨励会4級)の父親王さんは吉林省出身の中国人である。

去年は夏、青野九段に同行、寧夏銀川へ将棋指導、又10月には東工大で発足20周年、NPO法人化15周年を記念し、海外をテーマに羽生名人の講演及び普及に熱心な青野九段等をパネラーにシンポジウムを開いた。この模様はニコニコ動画で世界に放送され海外の将棋ファンからも大きな反響があった。

今年はこの3月、モスクワで第2回日露将棋・チェス交流大会を実施、東大、京大等日本の大学生を引率する団長は北君である。嬉しいことに超多忙の羽生名人4冠に同行して頂いた(羽生名人はチェスでも日本の第一人者)。又、8月にはアムステルダムで欧州選手権があり、北京では日中友好青少年将棋大会を企画している。

現在、青野九段は日本将棋連盟専務理事の要職にあり、日本将棋を世界の文化遺産に登録、また2020年東京オリンピックのマインドスポーツ競技種目にしたいと尽力されている。

我々ISPSの活動もその一助になればと願っている。

<

^

>